

薬剤師だから知っている。3分間の薬と健康の裏情報

294号「エボラ出血熱とは」

4回シリーズの2回目



漢方の健康堂薬局の店主 長澤昭と申します。

3月11日（金）に発生した東北地方太平洋沖地震により、被災された皆様に対し、心よりお見舞い申し上げます。

293号からは、「エボラ出血熱とは」と題して、4回シリーズでお伝えいたします。

293号 4回シリーズの1回目（11月14発行）

1. エボラ出血熱とは

短編（科学のよもやま話）第211号（11月21日発行）

最初の感染は

294号 4回シリーズの2回目（11月28日発行）

2. 空港などでの「水際対策」

短編（科学のよもやま話）第212号（12月5日発行）

ウイルスの大きさについて

295号 4回シリーズの3回目（12月12日発行）

3. エボラ予防ワクチン開発の動き

短編（科学のよもやま話）第213号（12月19日発行）

ワクチンとは

296号 4回シリーズの4回目（12月26日発行）

4. 感染しないためには



294号

2. 空港などでの「水際対策」

4回シリーズの2回目

2. 空港などでの「水際対策」

(1) 具体的に取りられている対策

西アフリカで流行が続くエボラ出血熱の国内感染を防ごうと空港などでの水際対策が強化されています。「アフリカの発生国（ギニア、リベリア、シエラレオネ、ナイジェリア、コンゴ民主共和国）に滞在された方は検疫官にお知らせください」。国際線で到着した全員が通る検疫所では8月11日以降、エボラ出血熱で死者が出ている西アフリカ諸国への渡航者に注意を呼びかける放送が日本語と英語で繰り返し流しています。

検疫所では、ポスターやテレビモニターで注意喚起する一方、体表温度が一定以上になると赤く表示されるサーモグラフィーで検疫官が入国者の状況を確認しています。

さらに各航空会社に対しては、発生国に潜伏期間にあたる21日以内に滞在した乗客は自己申告するようお願いする旨の機内アナウンスすることを依頼しました。

発生国に滞在した場合には問診等を実施し、流行地域（ギニア、リベリア、シエラレオネ）からの帰国・入国者には、空港の検疫所

で診察を行い、症状がある患者は特定の病院へ搬送する。症状がない場合は、入国後 21 日間、体温と体調の変化を 1 日 2 回検疫所へ報告させ、変化があった場合は検疫所が対応する体制をとっています。

また、法務省の協力により、入国審査の際にも再度滞在歴を確認しています。

(2) ただし、万全とは言えない

10 月下旬にニュースで大きく取り上げられましたが、45 歳の男性ジャーナリストが、エボラ出血熱の感染が疑われたということがありました。男性は、日本生まれの日系カナダ人で、8 月 18 日からリベリアに約 2 カ月滞在した後、ベルギー経由で、ロンドン発全日空 278 便で羽田空港国際線に 27 日に到着しました。その際、空港の検疫所で自ら滞在歴を申告し、体温を測定したところ 37.8 度だったため、国立国際医療研究センター（新宿区）で隔離されました。ウイルス検査は 2 度行われ、2 度とも陰性反応でした。

厚労省は国際線を持つ 30 空港でサーモグラフィーを使って乗客の発熱を監視していましたが、男性はそれにひっかかりませんでした。ただ、男性が自己申告したために今回の措置が取れました。

もし、男性がウソを申告していればどうなっていたでしょうか？

さらには、エボラ出血熱は、感染者の体液や血液に触れなければ感染しないと繰り返し報じられています。感染者と同じ電車に乗っ

たとしても、感染リスクは少ないと説明を受け続けています。旅行者も、「自分は感染していないと考えるべきだ」思っているのではないのでしょうか。旅行者のうちのどれだけの人が正直な申告をするのでしょうか？ 遠方からの到着の場合、長いと数日間飛行機の機内にいます。空港を出て、一分でも早く疲れを取りたいというのが普通の旅行者の心理でしょう。ウソを申告をする人がいないと言い切れるのでしょうか？

以上、今週の内容でした。

—[プロフィール]—————[プロフィール]—

■長澤 昭（ながさわ あきら）1952年 静岡県生まれ

1980年に薬局を創業。

2000年、毎日新聞「アミューズ」に、「漢方薬に詳しい薬局」として、全国わずか35店のうちの1店として取り上げられる。

2001年、約300の病名・症状別の「病気別漢方選薬システム」を完成させる。

現在は、当店HPにて公開中

登録／解除の方法

↓ ↓ ↓

<http://kenkodo.web.infoseek.co.jp/melmaga.html>

(E-Magazine からお購読の方はこのメルマガの一番下に解除フォーム有り)

注意・免責事項

◎一般の方向けの内容なので、厳密な医学用語は使用していません。医学的な専門性から考えた場合、妥当でない表現があると思いますが、なるべく平易な表現を使用するようにしてあります。

- ◎個別の健康相談を行うものではありません。
 - ◎体の状態は個人によって異なっています。現在治療中の方はかかりつけの主治医と相談をしてください。
 - ◎ご自分の責任の範囲でご利用ください。記載内容を利用し生じた結果について、当方では責任がとれませんのでご了承ください。
-

=====

薬剤師だから知っている。3分間の薬と健康の裏情報

発行者：漢方の健康堂薬局

発行責任者：長澤昭

<http://www3.ocn.ne.jp/~kenkodo/>

E-mail: <mailto:kenkodo@oregano.ocn.ne.jp>

「薬剤師だから知っている。3分間の薬と健康の裏情報」の本文は、著作権により保護されています。

ただ、個人的にお友達に転送することは自由です。その場合、このメルマガの一部だけを転送するのではなくて、全文を転送していただけると、うれしいです。よろしければ、お知り合いの知人、友人に教えてあげてくださいね（商用の場合を除く）。

転載の場合はご一報ください。

=====